

# 故長崎準一氏を悼む

(株)ニューガラスフォーラム 会長

鈴木 哲夫

早くからニューガラスの新しい可能性に注目され、昭和60年の当フォーラムの創立に際しては世話人として、また、社団法人化した昭和62年から平成4年まで副会長として高い見識をもって当フォーラムの活動を支援頂いた日本電気硝子(株)前社長の長崎さんが平成6年11月18日忽然と逝かれました。偲えば、平成3年の当フォーラムの総会にご出席されお元気な姿を拝見し、フォーラムの発展を喜んで頂いたのが最後となってしまいました。ここに、改めてご冥福をお祈り申し上げる次第であります。

特殊ガラスメーカーとしての大きな発展を視野に昭和24年、日本電気(株)から分離独立した日本電気硝子(株)の創立に中心的な役割を果たされた長崎さんは、文字通りガラスと共に50年、わが国を代表する高い技術開発力に支えられたハイテクノロジーガラスのメーカーとして今日の日本電気硝子を育てられました。亡くなられる前の好好爺風の表情からは想像もできない経営者としての強いリーダーシップと技術の可能性にける確固たる信念をもって同社を率いて来られました。

就中、今日の発展の基礎となった将来の映像事業の成長を見通しての「ブラウン管」事業への進出は大変なご決断であったと存じます。超大型ブラウン管バルブの設計に航空機の強度計算の手法を応用する等高度技術の確立で、円高によるわが国産業の競争力が問題視され空洞化が懸念されている昨今でも、海外からの脅威は全く受けないと言うことであり、まさに私達の絶好のお手本となっております。

社運をかけて開発された「低膨張結晶ガラス」の工業化においてもメルティング、成型、結晶化などの工程の自動化を陣頭指揮をされたとお伺いしております。

亡くなられる直前まで情熱を燃やしておられたのは地球環境を脅かす化石燃料に代わるクリーンなエネルギーとして太陽エネルギーの有効利用を目指した「ソーラーコレクター」の開発であります。その時々々の社会ニーズを適確に把握した素晴らしい経営判断であったと存じます。

「技術の進歩は無限である。」、「大きい会社になることより競争力のある会社に。」この二つをモットーに今日の日本電気硝子を率いてこられました。

ニューガラスフォーラムの運営も今、大きな転換期にさしかかっていますが、「ガラス技術の進歩は無限である。」との信念のもとに今後の展開を図って行きたいと存じております。

長崎さん、フォーラムの運営に大きな力添えを頂き本当に有り難うございました。